

＜1 テーマ＞	＜3 成果指標と実績＞			
<b>印高（高きを仰ぐ）の精神の涵養</b> ～校外の学習活動を通して主体性を引き出す～	成果指標	初期値	目標値	R 2年実績
	① 授業への取組 2年 1年	26% 32%	30% 40%	25.5%(C) 31.2%(C)
＜2 取組方法＞ (1) 実施体制 委員会が企画立案し、担当者が役割分担する組織的運営を行う。 (2) 生徒の学力向上 知的好奇心の高い生徒に適した体験活動を計画し、希望者が取り組むことで進路意識を明確にして研究に向ける志や学習意欲を高める。 (3) 教員の指導力向上 難易度の高い学習指導が確実に行われるよう研究と研修を計画し、実践する。リーダー育成をテーマに人間性を高める研究を進める。 (4) 高大接続改革 授業や体験活動の中で、言語能力や英語活用力を伸ばし、国内外で活躍できる力を育成する。	① 平日学習時間 2年 (塾講義時間を除く) 1年	2.06 2.23	2.30 2.30	2.09 (C) 2.27 (B)
	① 休日学習時間 2年 (塾講義時間を除く) 1年	3.20 3.52	3.40 3.40	2.89 (C) 3.36 (B)
	② 授業で力がついた実感 2年 1年	8% 12%	17% 17%	12.9%(C) 10.6%(C)
	① 難関国公立大学の受験者数	140人	180人	150人(C)
	② 外部連携による探究活動等への参加生徒数	90人	500人	784人(A)
	② 大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	830人	870人	316人(C)
	③ 難関国公立大学の合格者数	69人	80人	67人(C)
	① 難関国公立大学の志願者数	160人	180人	180人(A)
	② キャリア意識の高まりと進路目標の設定	データなし	770人	758人(C)

＜4 特徴的な取組＞

生徒の学力向上（体験活動）

エンパワーメントプログラム

外国人留学生と、8月17日から21日の5日間、英語で討論やプレゼンテーションを行うプログラム。今年度で3年目の実施となる。生徒からは外国人と話す自信がいったと好評だった。今年度は静岡城北高校、静岡東高校、清水南高校と合同開催し、本校生徒32人が参加した。



医学講座 希望者対象

例年は大学医学部の教授による講演会形式の講座を行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、9月23日にオンライン形式で現役の医大生の有志グループと医療に向ける心構えや医学部の授業内容、職務の使命等についてディスカッションした。（写真は昨年のももの）



キャリア形成プログラム 希望者対象

8/5(水) 1, 2年生48人参加予定

NPOによる事前学習の後、市内8か所の企業等(法律事務所、静岡新聞社、病院、企業研究所等)を訪問し、職業人にインタビューする。事後学習では、生徒によるプレゼンテーションも行った。



国際関係講座 希望者対象

国際情勢や外交問題への関心・理解を深めるために、海外から見た日本、国際社会における日本の役割等についての講演を開催する。世界で活躍する方から直接話を聞き、自分のキャリアを考える機会となった。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかった。（写真は昨年のももの）



### 東海高校即興型ディベート交流大会 希望者対象

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、6/13(土)に双方向会議システムZOOMを活用しての開催(岡崎高校、四日市高校、岐阜高校と本校の4校による開催)となった。本番に先立つ4月30日には四日市高校と合同練習も行った。論題を肯定側、否定側に分かれて即興英語で議論し、英語能力の向上と自分の意見を効果的に表現する力の涵養を目指した。本校のチームが1位と3位という成績を残した。



### 経済・経営講座 希望者対象

11月17日、日本経済新聞社記者の大西康平氏を招聘し、株式の世界から見ると社会の動きがどう見えるかについてのワークショップを行った。新型コロナウイルス感染症と株式市場の関係は特に興味深かった。

### 名大みらい育成プロジェクト 希望者対象

今年度は第1ステージが8月8日、10日、12日開催予定。第1ステージにより選抜された生徒が第2ステージに、さらにそこで選抜された本校生1人が最終ステージである第3ステージに進んだ。

### 進路講演会 1、2年対象

10/23(金)に12人の職業人を招聘して各分野の現状と社会の動きについての話を聞き、キャリア教育の一環とするとともに主体的に社会と関わる態度の育成を目指した。



### 大学出張講義 2年対象

文理別に大学から招聘した講師から大学生活についての話を聞く。今年度は12月にオンラインで実施。(写真は昨年のももの)



### 留学等体験活動参加支援

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、予定されていたグローバル人材育成事業、海外体験促進事業、モンゴル教育研修等が中止となった他、ふじのくにアドバンスド・ラーニング・コンソーシアムによるミネソタ州への生徒派遣(STEM教育推進コース)が次年度に延期実施されることとなった。

(写真は昨年度のグローバル人材育成事業でガーナ留学したときのもの)



## 教員の指導力向上(研修・視察)

### 教員研修

#### 「ケースメソッド研修」

日本におけるケースメソッド教育の第一人者の一人である名古屋商科大学学長栗本博行を招聘し、ハーバード大学で開発されたケースメソッドについての講習を12月24日に開催した。本校における探究活動をより効果的に行うため、ファシリテーションの各手法をはじめとし、教員の資質向上の一助となった。

### 教員研修(外部)

「進学校における主体的・対話的で深い学び」

本年度は浜松北高校にて10月29日に開催された研修に本校職員5名が参加した。

#### 新学習指導要領、高大接続改革研修

新学習指導要領や入試改革についての最新の知見を手に入れるため各種説明会に参加。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため少数の参加に留まった。

### 県外学校視察

3年間で30人の教員を特色ある教育を行う先進校に本校教員が訪問する計画だったが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかった。

### 難関大学入試指導方法の研修(外部)

夏季及び冬季に可能な限り多くの教員が予備校等の研修に参加して授業力、進学指導力を伸ばし、生徒の学力を引き上げる。

## <5 成果と今後の方向性>

高い学力と進学意欲を持つ生徒にいかにか知的好奇心を持たせ、社会を変革するリーダーとしての自覚を持たせるかという課題意識の下、どんな教育を提供し、どういう契機を提供できるのかを3年間にわたり模索してきた。今年度は新型コロナウイルス感染対応のため、計画の変更を余儀なくされたが、2学期以降、詰込み型から知的好奇心に裏付けられた思考力や表現力を伸ばす授業形態への移行を進めたい。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式に変更することができたもの以外は実施できなかったものも多かったが、コアスクール事業により生徒には多様な体験活動の機会を与えることができ、積極的に取り組んだ生徒の変容、成長が観察されている。今後も主体的に学ぶ意識を育む取組を提供することで、学力向上とともに社会をリードしていく自覚と人間性が育成されることが期待される。